

日高地区の研究活動

研修部長 新冠町立新冠小学校
校長 品田 和輝

1 はじめに

日高地区校長会では、確かな学力を育成できる学校づくりに向けて、校長レベルでは、学校改善プランを有効に機能させるための校長の指導性、町校長会レベルでは、自町の小中一貫（連携）教育等、重点的な取組を具体化し充実させるための町校長会のリーダーシップについての研究を2か年計画で取り組んでいるところである。

本年度は1年次であり、研究の実践過程をマネジメントサイクルにおける‘現状把握’‘計画(P)’‘実践(D)’に焦点化し取組を行っている。



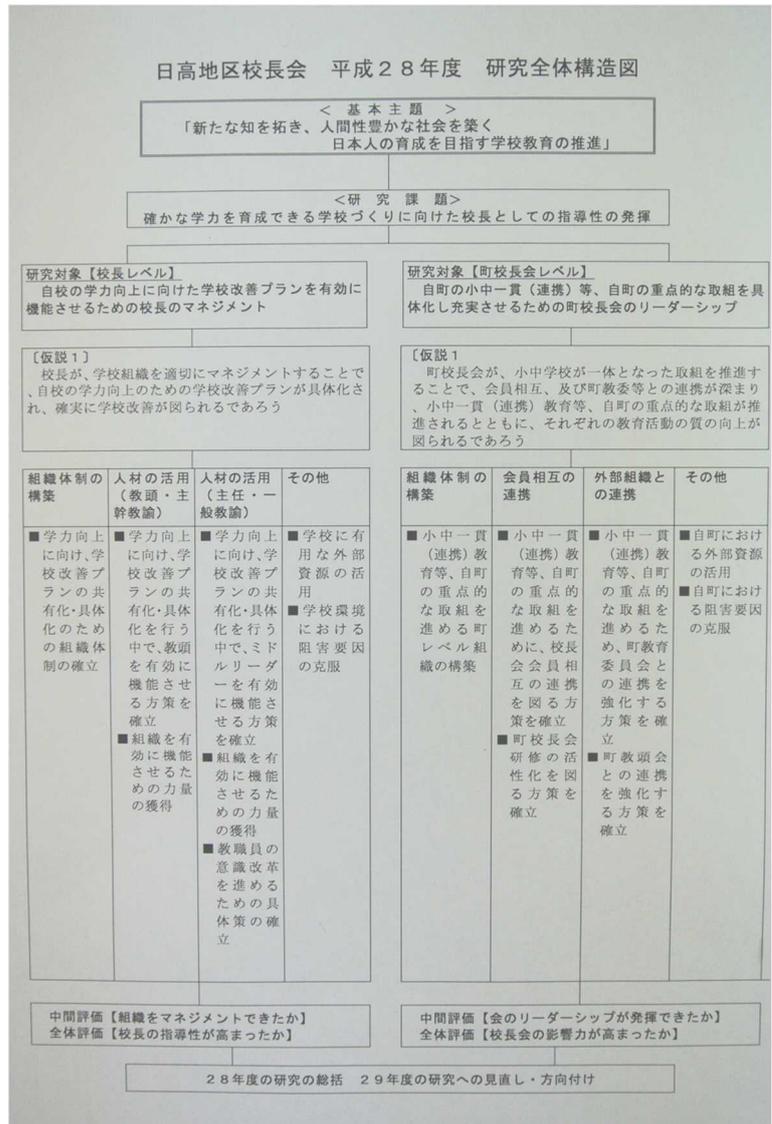
2 研究計画

- (1)基本主題
- (2)研究課題
- (3)研究の対象・仮説
- (4)研究の視点・内容

* (1)～(4)については右記全体構造図を参照

3 研究方法

- (1)研究主体を校長・町校長会レベルに分けて研究を進める。
- (2)各レベルで研究計画を作成・評価・改善を図る。
- (3)校長レベルと町校長会レベルは研究の共有性を高めるため研究計画・実践報告に統一フレームを設定し使用する。
- (4)各校長・各町校長会の研究実践の交流・協議の場として、研修部長研修会及び、ブロック別研修会、管内小・中学校長研修会を設定する。
- (5)1年次の評価に基づいて2年次の研究計画の見直し、研究の深化・充実を図る。



4 研究活動の概要

(1)「学力向上委員会」発足に伴う研究組織・内容の整理

日高地区校長会では、昨年度、学力向上に向けた具体的な取組を行う「学力向上委員会」を立ち上げた。今年度は学力向上に係る取組に関する実態調査を実施し、その分析を基に「学力向上実践事例集」を作成し、実践事例の共有化を図っている。また、学校改善プランを有効に機能させる組織マネジメントについての研究は「地区校長会研修」として取り組んでいる。

(2)研究対象の焦点化

組織におけるマネジメントの視点を明確にし、町校長会レベルでは自町の小中一貫（連携）教育等、重点的な取組を具体化し充実させるためのリーダーシップ、校長レベルでは自校の学校改善プランを有効に機能させるための指導性について重点化し研究を深めている。

(3)個人研究と組織研究の融合

町校長会レベルの研究は、「各校長レベルの研究を支援する指導性」と「町の教育リーダーとしての指導性」を各町共通の視点とし、町研修部長を中心に組織的な研究を進めている。町レベルでの重点的な取組についての協議と合わせ、校長レベルの研究を計画的に交流・協議するシステムになっており、学校実態や校長としての経験年数の差への対応策を検討したり、各校の優れた研究実践を共有したりする場になっている。

(4)研修機会の多様化

① 研修部長研修会による共有・検討

地区校長会としての組織的な研修推進に向け、各町レベルの研究実践を共有・検討する場として、年間4回の研修部長研修会を開催している。研修計画・実践報告書などを持ち寄り、実践状況や成果・課題を交流し、検討する場として機能させている。

② ブロック別研修会

夏季休業中に管内を3ブロックに分けたブロック別研修会を開催し、本研修の前提となる学校改善プランやそれを有効に機能させる校長レベルの研究計画及び実践についての交流・協議を行っている。

③ 管内小・中学校長研修会による検証・改善

本年度の交流・検証のために、12月2日（金）、3日（土）に、管内小・中学校長研修会を開催した。研究課題に基づく研究の仮説の検証のため、全体会①では、町校長会レベルの実践報告について全会員で共有し、管内的な傾向や課題等について協議している。全体会②では、6つのグループに分かれ校長レベルの実践報告について交流・協議している。さらに、校種・規模別分科会では、全体会の協議やブロック別研修会よりの今後の課題及び学力向上委員会よりの実態調査結果分析の報告等を踏まえ、学校改善プランを有効に機能させるための組織マネジメントに関して、校種や学校規模による特徴や傾向を分析する視点で協議を深めている。

5 おわりに

日高地区校長会では、「学力向上委員会」や「研究内容の重点化」等の取組により、少しずつではあるが、成果が見え始めている。今後も管内の最重要課題である「学力の向上」に向け、組織的で有効な改善策をマネジメントするに当たり、校長の強いリーダーシップを発揮できるよう、引き続き研究活動を充実させていきたいと考えている。